

第22回新潟哲学思想セミナー

Niigata Philosophy Seminar

ジョルダノー・ブルーノを読む
ジョン・トーランド
汎神論の発明

講師 岡本源太
(岡山大学文学部准教授)

THURSDAY

2016 / 9 / 8 / 18:30～20:00

新潟大学五十嵐キャンパス
総合教育研究棟B棟5階プレゼンルーム

NiiPhiS

主催：新潟哲学思想セミナー [NiiPhiS] (世話人＝宮崎裕助・古田徹也)
共催：新潟大学人文学部哲学・人間学研究会
お問い合わせ：宮崎裕助 (E-mail: yusuke@human.niigata-u.ac.jp)

講演会概要

近代の黎明とされるルネサンスは、こと哲学史においてはその影響力が見えにくく、以後の近代哲学にどのように引き継がれたのか、いまだ十分に解明されていません。本発表では、ルネサンス哲学の隠れた後裔の一例として、アイルランドの自由思想家ジョン・トーランド(John Toland, 1670-1722)の哲学を取り上げます。ロックとバークリのあいだにあって、ライプニッツやベールやクラークとの論争を通して、みずからの哲学を「汎神論」として鍛え上げていったトーランドは、1698年にルネサンスの哲学者ジョルダノ・ブルーノ(Giordano Bruno, 1548-1600)の一連の著作を入手して以来、つねにそれを座右に置き、多数の書き込みと、部分的ながら英語訳を残しています。トーランドはブルーノからなにを受け取ったのか——ルネサンス自然主義から近世自由思想への継承の内実を探ります。

【岡本源太氏プロフィール】

1981年生まれ。岡山大学文学部准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。専門は、ルネサンス期西洋および現代の哲学思想と芸術理論。著書に『ジョルダノ・ブルーノの哲学——生の多様性へ』(月曜社、2012年)、『『明るい部屋』の秘密——ロラン・バルトと写真の彼方へ』(共著、青弓社、2008年)、訳書に、ジョルジョ・アガンベン『事物のしるし——方法について』(共訳、筑摩書房、2011年)他。

